

琵琶湖八景の誕生

琵琶湖八景

皆さんは、「琵琶湖八景」をご存知でしょうか。「琵琶湖八景」というのは、昭和24年（1949年）6月に、滋賀県と琵琶湖観光協会が新たな名所を選んで観光の振興に役立てることを目的に選定した、8か所の景観地のことです。高島市内では、「暁霧—海津大崎の岩礁」が含まれています。



海津大崎の岩礁

江戸時代の景観地「近江八景」

滋賀県での八景としては、古くから伝わる「近江八景」が有名で、これは、江戸時代初頭に関白・近衛信尹が中国湖南省の洞庭湖および湘江から支流の瀟水にかけてみられる典型的な水辺の情景を集めて描いた瀟湘八景図にならって選んだものといわれています。「石山秋月」、「瀬田夕照」、「粟津晴嵐」、「矢橋帰帆」、「三井晩鐘」、「唐崎夜雨」、「堅田落雁」、「比良暮雪」という地名と情景を合わせた景観は、江戸時代後期の浮世絵師・歌川広重が描いた名所絵によって、全国的に知られるようになりました。

琵琶湖中心の観光振興を「琵琶湖八景」の誕生

しかし「近江八景」の選定地は、現在の天津市・草津市という県の

南部に偏っていることから、戦後、琵琶湖を中心とした観光振興を進める県が、県内全域から新しい観光名所を選ぼうと企画したのが「琵琶湖八景」でした。

「琵琶湖八景」候補地は、公募され、応募総数は31,674件にもなりました。この中から慎重な検討がなされ、さらに現地視察を経て、選定されたのが、「月明彦根の古城」、「涼風 雄松崎の白丁」、「新雪 賤ヶ岳の大観」、「煙雨 比叡の樹林」、「新緑 竹生島の沈影」、「夕陽 瀬田・石山の清流」、「春色 安土・八幡の水郷」そして「暁霧 海津大崎の岩礁」という8か所でした。

高島市の魅力を古くから伝える「暁霧—海津大崎の岩礁」

「海津大崎の岩礁」は、マキノ町海津大崎付近の湖岸または湖中で多くの花崗岩が露出した独特の景観を示していて、この付近は、昭和11年（1936年）に桜が植樹され、現在では「日本のさくらの名所百選」にも選ばれる海津大崎の桜並木とともに、市内随一の

美しい景観地として有名です。また近年では、平成20年に海津から知内へ続く湖岸一帯が「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」として国の重要な文化的景観に選定されたほか、今年の4月には、新たに誕生した「日本遺産」の構成文化財にもなりました。

このように、早くから景観地として知られてきた海津大崎付近は、近年の制度や選定により、風景の美しさと共に文化財としての価値が認められるようになり、ますますその魅力を高めています。

図文化財課

☎(32) 4467

編集後記

日中と朝晩とで気温の差が大きくなり、秋の深まりと同時に冬が近づいてくるのをひしひしと感じるようになりました。私は毎年この時期になると、どんな服を着て出かければいいのか朝から悩んでしまいます。しかし、自然や動物たちが色鮮やかに、あったかそうな装いに衣替えを始めるように、人間も洋服や小物でおしゃれをより楽しむことができる季節です。皆様も季節の変わり目に体調を崩されることのないよう、暖かくしてお過ごしくださいね。(M)



広報たかしま

平成27年

12

月号
No.191発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒510-0106 滋賀県高島市新旭町北畑565番地☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp

安曇川沿いに走る若狭街道

琵琶湖へ注ぐ水のほぼ3分の1を生み出す高島市は県下最大の水源地域です。源流で生まれた豊かな木材は、奈良や京都の都に運ばれるなど、その繁栄の礎を支えてきました。

中でも湖西地域最大の流域面積を誇る安曇川は、朽木生杉の針畑川上流や京都市左京区の百井峠を水源に比良山地と丹波高地に挟まれながら北流し、高島市に至ります。この安曇川の流れに沿うように「京は遠ても一八里(約72km)」と唄われた若狭と京都を最短で結ぶ、若狭街道が走ります。この道を通じて、一昼夜をかけて運ばれ塩漬された鯖は、良い塩梅として海浜のない京都の人々に珍重され、古くから多くの人々や物資がこの街道を行き交いました。このことから「鯖の道」若しくは「鯖街道」とも呼ばれています。

この若狭街道は、戦国時代には、織田信長が北陸の朝倉氏討伐の際に、湖北の浅井氏の裏切りにより窮地に追い込まれ、命辛々、都へ逃げる際にも利用されました。現在、朽木三ツ石には、この時に信

安曇川がつなぐ

ストーリー

長が身を隠したと伝わる隠れ岩が残り、解説板が設置されるなど地元で大切に継承されています。

生活に息づく安曇川の恵み

安曇川の流れは、鎌倉時代から明治時代の廃藩置県まで朽木一円の領主であった朽木氏の居館付近(朽木陣屋跡)で琵琶湖に向けて流れを東に変え、高島平野を形成し、豊かな田園風景を構成します。安曇川右岸の泰山寺野台地には、継体天皇の父彦主人王の陵墓参考地とされている田中王塚古墳が分布し、左岸の饗庭野台地には高島七頭の惣領家の居城である清水山城館跡が築かれるなど、その時々支配領域から安曇川を眼下に望むことができます。

そして安曇川からの伏流水は湧き出て、「かばた(かわと)」として、今の生活に息づくとともに、全国シェア9割を誇る扇骨は、かつては安曇川の竹材が利用される

など、安曇川を中心とした「水と人々の繋がり」は今でも大切に受け継がれています。

日本遺産第1号の構成要素に

これら水との繋がりは、私たちにとっては日常的な光景ですが、その営みや生活文化が評価され、昨年文化庁により制定された日本遺産の第1号(※1)として認定された「琵琶湖とその水辺景観」祈りと暮らしの水遺産」の構成要素の一つとして、「重要文化的景観 針江・霜降の水辺景観」が含まれています(※2)。

これらの認定は、水との関わりある営みが今もなお息づいているなど、身近にある生活や文化の重要性を改めて私たちに気づかせてくれるものです。

※1 平成27年度の初の認定には全国からの83件の応募のうち、18件が初の認定となりました。
※2 高島市内からは、3つの重要文化的景観のほか、白鬚神社、シコブチ信仰が構成要素に含まれています。

固観光振興課
☎(25) 8040



安曇川のヤナ漁のようす

編集感

4月(5月号)から広報作成に関わることになりました。正直に言いますとこれほどじっくり端から端まで読んだ事もありませんでしたし、これほど手間がかかっているという事にも考えが及んでいませんでした。取材・写真撮影・記事作成・校正など初めての経験ばかりで苦労続きでしたが、成果物が完成に近づくといえな達成感で一杯です。締切に追われる日々が続くことになりそうですが、高島市のさまざまな出来事を市民の方に知っていただけるよう、情報収集・情報発信を頑張っていきたいと思っています。(H)



広報たかしま

平成28年

5

月号
No.196

発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒500-1501 滋賀県高島市新旭町北畑5の6番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
mailto:info@city.takashima.lg.jp



琵琶湖の伝統的木造船「丸子船」

丸子船は、江戸時代から昭和初期頃まで、琵琶湖での荷物運搬や漁業の主役として活躍した木造船のことです。杉の丸太を半分に割ったものを重木として船の両側に取り付けていることから、「丸子船」、「丸船」、「マルコ」等と呼ばれてきました。船の構造は琵琶湖の伝統的な木造船特有のもので、舳先には斜めに板をつなぎ合



海津浦に着く丸子船

かいづうら まるこぶね 海津浦に着いた丸子船

わせた舳板やそれを飾る伊達鍔が使われるのもこの船の特徴でした。

江戸時代の湖上運搬

琵琶湖の水運を使った丸子船での荷物輸送が最も盛んであった江戸時代前期、琵琶湖上には1000艘を超える丸子船が就航していたと言われています。慶安2年（1649年）に琵琶湖の各浦（港）が所有する船数を書き上げた記録によると、大津の109艘が圧倒的に多く、次いで、高島市内の舟木が53艘、今津が52艘、海津が50艘と、湖西の各浦が多

くの丸子船を所持していたことが分かります。

江戸時代、そうした多くの船が各浦で荷物を積み込む際のルールは、天正19年（1591年）に豊臣秀吉が定めた「艦折廻船」の決まりが基本となっていました。これは秀吉が琵琶湖の諸浦に対して、港に船が入港したとき、艦（船尾）が先に浜に着いた船から荷物

を積み込むことができるという船積み順番を定めたものです。荷物運搬の仕事をする人と船主にとって、自分の船に少しでも早く、多くの荷物を積み込むことが重要となることから、荷物の取り合いや積み出しの順番争いなどを避けるため、この「艦折廻船」は江戸時代を通じて、琵琶湖の各浦々で使われるルールとなりました。

丸子船とマキノの風景

こうした丸子船が昭和初期にマキノ町海津の浜に着く様子を写したものが右上の写真です。

丸子船の写真を含めた、大正末期〜昭和初期の海津・西浜の風景を示す写真が、現在、マキノ町海津の中ノ川橋横に開設されている「海津街かどギャラリー」で展示されています。海津・西浜周辺の水辺の生活文化を伝える貴重な写真と、当時の撮影に使われたカメラ・ガラス乾板フィルムと一緒に展示されていますので、ぜひご覧ください。

編集 雑感

琵琶湖の魚を食べていますか？今月号は「湖魚」について特集しています。日本一美味しい！と評価を受けた「天然のビワマスの親子丼（P4）」など、琵琶湖は美味しい食材の宝庫です。食べる人（買う人）がいないと魚屋さんや漁師さんが湖魚を扱わなくなるようです。せっかく良い状態で湖魚を手に入れることのできる地域に住んでいるのですから、皆さんの家庭の食卓にもいかがでしょうか？我が家の食卓にも並べてみます。（H）

図文化財課 ☎ (32) 4467

海津街かどギャラリー

- ▶開設日 2月5日㊤、11日㊤、
12日㊤、19日㊤、
26日㊤
3月5日㊤
- ▶時間 11時～15時
- ▶場所 マキノ町海津2287番地
中ノ川橋横



400年の伝統 大溝祭

分都光信が大溝へ

高島市勝野には、かつて大溝藩とよばれる二万石の藩が存在していました。この大溝藩の起源は、元和5年（1619年）8月に、伊勢国上野（現在の三重県津市）城主であった分都光信が、新しい領地として近江国大溝に入ったことに始まります。初代藩主の光信は、織田信澄（信長の甥）が築いた大溝城三の丸跡あたり（現在の

分都神社）に陣屋とよばれる館を構え、大溝城下の町並み整備を進めました。

湖西地域唯一の曳山祭り

この分都氏の城下町である大溝には、その当時の華麗な祭礼文化を今に伝える大溝祭が5月に開催されます。大溝祭は、勝野に所在する日吉神社で行われる湖西地域唯一の曳山祭り、滋賀県選択無形民俗文化財となっています。その起源は、光信が大溝藩を治めた際に、始めたといわれています。

華やかな天幕と胴幕、見送り幕などで飾られます。趣向を凝らした各曳山は、古式にのっとりて笛、太鼓・鉦の囃子で巡行します。3日の宵宮祭では、各曳山は提灯の点火で華麗に彩られながら夕暮れ時を巡行します。翌日、4日の本祭では、各町内から総門（旧大溝陣屋正門）前に曳山が勢揃いし、賑やかに囃立てながら日吉神社の馬場へと向かいます。神社では神霊遷しの儀式などの後、露払いを先頭に、鉦、傘鉦、太鼓、神輿、そして曳山の順で御旅所や各町内への渡御が行われます。

400年の伝統を未来へ

2019年には、初代藩主の分都光信が大溝に入って400年を迎えるなど伝統を誇る大溝祭ですが、近年ではボランティアでも参加できる曳山の引き手を受け入れるなど、伝統文化の継承と地域の活性化を目指した新たな取り組みが進められています。皆さんも、



湖西唯一の曳山祭りである大溝祭に訪れてみてはいかがでしょうかでしょう。

図文化財課 ☎(32) 4467

編集 雑感

新しい生活にも少しずつ慣れてこられましたか？多くの方が、新しい環境で新年度をスタートされたかと思ひます。私も4月から広報に携わるようになりました。聞き手から発信する側になると知った時は期待と不安が混ざりあって、落ち着きのない毎日でしたが最近はずいぶんやりがいを感じられるようになってきました。

みなさんに楽しみにしていただける広報を届けられるよう、頑張っていきますので、よろしくお願ひいたします！(A)



広報たかしま

平成30年

5

月号
No.220

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒500-1502 滋賀県高島市新旭町北畑5-5番地

☎0740(25) 8000②
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp

「大溝祭」 曳山の装飾

大溝藩成立、400周年

特集ページでも紹介しているとおり、2019年は分部氏が大溝に入って400年という節目の年にあたり、大溝祭に併せて、さまざまなイベントが企画されています。今回は、大溝祭に登場する曳山についてご紹介します。

大溝祭の曳山

大溝祭は、分部氏の前任地である伊勢国上野（現三重県津市）の祭礼を移したものとされていますが定かではありません。勝



野の五地区から五基の曳山（湊・巴・寶・勇・龍）が出され、5月3日の宵山と5月4日の本祭でその装飾を変えて勝野の町を巡行します。大きさは各山ごとに多少の違いがありますが、幅約2・4m、全長約6・5m、高さ約5mになります。また、曳山の屋根周りや柱などにはきらびやかな装飾が施されており各曳山を特徴づけています。

宵山では、曳山の上部に各山組の提灯が据えられ、夜の勝野を華麗に彩りながら巡行します。翌日の本祭では、提灯の代わりに見送り幕が飾られます。見送り幕は各山組で、由緒・デザインがさまざまです。湊組は中国清朝の作品で四人の人物、巴組はインド織の絨毯、寶組は龍雲、勇組は江戸時代の絵師円山応挙の子応瑞が下絵を描いた三人の人物、龍組は竹林七賢人



となっています。

祭りでは勇壮な曳山巡行が目を引きますが、訪れた際には視点を移してさまざまな意匠を凝らした曳山の細部をじっくりと鑑賞してみたいかがでしょうか。

閩文化財課 ☎(32) 4467



編集感

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は特集や歴史散歩でも紹介している通り、大溝藩成立から400年の記念の年となります。数年の間高島に住み、祭を間近で体感していた私は、記事を読んでとてもワクワクしてきました。「400年で…」ちょっと簡単には想像できないですね。私は、「大溝400年すごろく」で遊びながら予習をして、5月の大溝祭を楽しみたいと思っています。皆さんも今年はぜひ大溝祭へ行きましょう！（H）



広報たかしま

平成31年

1

月号
No.228

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒520-0156 滋賀県高島市新旭町北畑5-9番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp

白鬚神社の文化財建造物

白鬚神社の建造物

鵜川にある白鬚神社は、湖中に建つ大鳥居が有名ですが、それ以外にも境内には由緒ある建造物が多く残されています。慶長8（1603）年に豊臣秀吉の遺命により、本殿・鳥居・内宮・外宮・八幡神社本殿・若宮神社本殿・地蔵堂・御供所・拝殿の9棟が建て



市指定文化財の境内社

市指定文化財の境内社

本殿の西側にあるのが若宮神社本殿で、構造は一間社流造で屋根は柿葺きです。後に紹介する他の境内社と比べると装飾的な要素が強く、独特の意匠を見せています。

本殿と若宮神社本殿の間の石段を上ると、3棟の社が並んでいます。一番大きな社殿が八幡神社本殿で、三間社流造、柿葺きです。八幡神社本殿の右隣が内宮で、さらにその隣が外宮です。内宮・外宮は、構造が同じで一間社流造の銅板葺です。この二つは置千木と呼ばれる屋根の両端

直され、そのうち本殿・内宮・外宮・八幡神社本殿・若宮神社本殿の5棟が現存しています。本殿は国の重要文化財（建造物）に、その他は市指定文化財に指定されています。また、昭和7（1932）年に建築された社務所は、国の登録有形文化財に登録されています。

国登録有形文化財の社務所

白鬚神社本殿の正面右隣にあるのが社務所で、神社には建築当時の設計図が残っており、その設計図から、県内各地の職人が建築に関わったことが分かっています。構造は入母屋造妻入の書院建築で、正面には唐破風造の玄関を備えています。

白鬚神社には、このように多くの文化財建造物が残っています。参拝の際には、じっくりと境内を見学してみたいかがでしょうか。

閤文化財課

☎（25） 8559



社務所（国登録有形文化財）

編集 雑感

間もなく琵琶湖が眩しく輝く季節がやってきます！

高島市公式Instagramでも夏の琵琶湖は人気があり、高島市をPRするのに欠かせない魅力の一つです。

そのインスタのフォロワー数も2千人を超え、少しずつではありますが「高島ファン」は順調に増加しています。

そのような中、7月12日～15日に開催される「東京カメラ部2019写真展」にブース出展することが決定しました。このチャンスを最大限にいかして、風光明媚な高島市を全国にPRしてきます！（YO）



広報たかしま

令和元年

7

月号

No.234

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒901-1201 滋賀県高島市新旭町北畑5-5番地

☎ 0740（25）80004

http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp

文化財建造物の建築・修理記録

建造物に残される記録

社寺などの古い建造物の中には、いつ建てられたのか、いつ修理されたのかが明らかになっていないものが多くあります。それらは文書などの紙資料以外に建造物自体に残されている記録から分かり、その主な記録は棟札と呼ばれるものです。

棟札は、建物を建てたときに建物の上部に取り付ける木の板で、建てた年代や経緯の他、建築に関わった役員や大工の名前などが書かれています。記録には棟札の他にも、縁廻り・高欄の柱に施す宝珠形の装飾（擬宝珠）に刻まれた

銘や板壁などの部材に書かれた墨書き等があります。

棟札から分かること

鵜川にある白鬚神社には7枚の棟札が残されており、国の重要文化財に指定されている白鬚神社本殿に関するものが3枚、残りの4枚は境内社に関するものです。慶長8年（1603）の棟札は2枚あり、そのうちの1枚は長さ136cmもある大きな板で、建立を命じた豊臣秀頼やそれに関わった片桐且元の名前が書かれるなど、白鬚神社本殿を建てる経緯が詳しく書かれています。

▲慶長8年の棟札（白鬚神社建立）



修理記録

安曇川町北船木にある国の重要文化財・若宮神社本殿は、棟札から明応6年（1497）に、当時の地頭佐々木能登守長綱により建てられたことが分かっています。また江戸時代から昭和までの修理履歴が書かれた棟札が残されています。

このように、棟札の記録は建築年代の特定や修理履歴の把握などに重要な役割を果たします。

現在の修理記録

新旭町饗庭にある波爾布神社は、現在解体修理を行っており、2つの方法で修理記録を本殿に残しています。1つ目が焼印で、破損や老朽化した部材を新材に交換するときに焼印を押し、今回の修理で交換した部材であることを記します。ただこの焼印は、見えな部分に押されるため、修理中しか見ることのできないものです。2つ目が修理銘板で、棟札に代わるもの



波爾布神社の修理のようす

として、完成後に修理概要を記し本殿に設置される予定です。

このように文化財建造物の修理は、その過程をあらゆる方法で記録に記し、その修理記録を後世に伝え続けています。

文化財課 ☎ (25) 8559

大善寺の変遷

新庄から大溝へ

高島の中世から近世にかけての歴史を構成する重要な寺院として大善寺があります。現在、市内には、2か寺の大善寺があり、新旭町新庄と勝野の山手に所在します。『高島郡誌』（昭和2年刊行）には『大善寺 新儀村大字新庄字東町に在り、【中略】創建は延暦年間（782～805）にして熊野山（今の饗庭野）の堂立山にありしが寛平年中（889

大善寺（新庄）



～897）東河原村（現在の新庄）に移れり。【中略】織田信澄（信長の甥で養父は磯野員昌新庄城主）は大溝城下に別院を建立せしむ。（二部加筆）とあるとともに、勝野の大善寺については次のように記しています。『天台宗眞盛派坂本西教寺末に属す。【中略】本寺は新莊村に在る大善寺の別院として天正六年（1578）織田信澄が創建したるものなり、此時萩濱に移転し、【中略】延宝4年（1676）4月当寺の位置湖水

大善寺（勝野）

この地域は、湖上から大溝港に出入りする際、一番に目に付く位置であり、大津方面から西近江路を北上すると大溝城下の手前に位置します。このことから、大溝城主信澄が大善寺別院を、湖路と陸路の要であった大溝港の防御のために配置したことが考えられます。

湊の大善寺

に臨み水害多きを以て此に移転す。（一部加筆）とあります。このことから、勝野の大善寺は、新庄の大善寺の別院として大溝城下に創建され、一時期萩の浜にあったことがうかがえます。



大善寺旧跡（湊）

置します。このことから、大溝城主信澄が大善寺別院を、湖路と陸路の要であった大溝港の防御のために配置したことが考えられます。

間 高島歴史民俗資料館
(36) 1553

白鬚神社の保存修理

50年ぶりの本格修理

令和5年6月に始められた白鬚神社の保存修理工事が、3月末に完了の見込みとなりました。今回の修理では、約2年をかけて本殿および拝殿の耐震診断、屋根檜皮葺き替え、構造補強、木部補修、金物補修等が行われました。なお、本殿は重要文化財に指定されていることから、工事の設計監理および施工は文化財保存修理の専門技術と経験を持つ業者が請け負うとともに、文化庁や滋賀



屋根葺き替えのようす

県文化財保護課の指導を得て進められました。また、本殿部分の修理経費の一部については、国、滋賀県、高島市からの補助金が充てられました。白鬚神社で前回同様の保存修理が行われたのは、昭和49年（1974）のことでしたので、今回は約50年ぶりの本格的な保存修理となりました。

これまでの経緯

白鬚神社本殿は、棟札および内陣嵌板の墨書銘から、豊臣秀吉の息子・



葺き替えを終えた拝殿の屋根

秀頼の命によって、片桐且元が奉行となつて慶長8年（1603）に建てられたものであることが分かっています。桁行3間、梁間3間の入母屋造りで、内部は前方の1間を外陣、次の2間を内陣とし、中央背面寄りに祭壇が設けられています。残される棟札や記録等から分かる限りでは、寛永元年（1624）に拝殿が建立され、明和6年（1769）に屋根の葺き替え、安永7年（1778）には正面木階、縁および高欄廻り、軒先支柱等の修理が行われています。そして明治12年（1879）に現在の拝殿が本殿に接続する形で建立され、明治41年には檜皮葺きによる屋根の葺き替えが行われました。さらに、昭和13年（1938）に国の文化財に指定された後の昭和21年には、国からの補助金を受けて屋根の葺き替えが行われました。

令和の保存修理

今回の保存修理事業では、施工に先立ち、本殿および拝殿の耐震診断が実施されました。重要文化財の保存修理では、今後想定される大地震に備えて耐震性能向上の検討を行う

ことになっており、白鬚神社でも、一部の耐震性能不足の診断結果を受け、必要な耐震補強工事が追加されることになりました。さらに、老朽化していた避雷設備についても機能向上や一部取り替えなどが追加で実施されました。

自然災害が多発する近年の状況を踏まえ、防災対策の強化が図られた点も今回の保存修理の特徴の一つといえます。

問 文化財課

☎（25）8559

編集 雑感 現在、湖西線の一部駅で「湖西線アートプロジェクト」が実施中です！集めるのが楽しくなるスタンプラリーや、湖西線に関する情報が発信されている湖西線博物館、そして、「駅恋」というノベルゲームなどが展開されています。他にも4ページからの特集2では、さまざまな公共交通をお得に利用する方法などが紹介されていますので、暖かくなるこれからの季節、公共交通に乗って市内をお出かけしてみませんか？（K）



広報たかしま

令和7年

3

月号
No.302発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒510-0802 滋賀県高島市新旭町北畑5-10番地☎0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp